

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンがあった前年と比べて70%、前々年比では65%と持ち直しの兆しがみえる。来客数は増加傾向にあるが、前年同様に平均単価が上がらない。緊急事態宣言が長く続いた影響で、飲食店を中心に人手不足で回っていない店が多い。
	◎	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、8日からはGo To Eatキャンペーン食事券の再販売も始まり、個人客を中心に客足が伸びている。
	◎	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・10月1日より金沢市のまん延防止等重点措置が解除され、徐々に県民が外出するようになってきている。併せて観光客や出張者も増えている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・大手デパートの創業祭や物産展は盛況である。気温が急激に下がったため、冬物衣料、若者向けの初冬カジュアル衣料も勢いづいてきている。トランジットモールの社会実験が久しぶりに開催されてにぎわいをみせたが、商店街の売上回復にはまだまだ時間が掛かるとみている。新型コロナウイルス感染症の終息が絶対条件である。
	○	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・デイリーは前々年より少し落ちているが、景品等の注文が増えてきていることから、前年よりはややプラスの傾向となってきているようである。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等が解除されてから徐々に人の動きが出てきたが、本調子にはまだまだこれからである。取引先の飲食店に聞くと、早めの時間帯から客は戻ってきたが、午後9時になると誰もいなくなるということである。
	○	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・前月辺りから来客数の増加が日々続いている。他の業界もそうだと思うが、客の外出や来店が増えていると考える。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・9月30日でまん延防止等重点措置が解除され、徐々に客が戻ってきている。前年実績のある食品物産催事は、開催期間を変更したため今年は開催がない。また、月末最終日は衆議院選挙の投開票日とマラソンの開催による市内中心部への交通規制の実施などマイナス要因が重なったが、店全体では前年実績を超える見通しである。
	○	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・冠婚葬祭や旅行といった動きが見え出し、関連したフォーマルウェアやアウターなどが動き始め、今まで不振だった婦人ブランドでも前年を超えるショップがはじめてきている。気温の低下によりコートなどの防寒用品や寝具関連の高額品が好調である。
	○	百貨店（販売担当）	販売量の動き	・来客数の増加に加え、購買行動にも積極性が出ている。旅行や結婚式などの需要が少しずつ増加し、それに伴う衣料品の需要が拡大してきている。また、気温の低下もあり、コートやブルゾンに加えて肌着やパジャマなどの実需品の購入が拡大しており、季節前に買う傾向である。また、高齢者の来店が増加し、久しぶりに来たという声やまとめ買いする姿も見受けられる。県による消費喚起策が非常に大きな影響を与えている。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新規感染者数が減少したことにより繁華街の人出が増加している。そのため店舗の来客数も週末を中心に増加している。昼間の客の流れが新型コロナウイルス発生前に戻りつつあったところに、夕方や夜間、週末なども客が戻りつつあることで、景気は上向いてきていると考える。
	○	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まってきたことは明るい材料であるが、客はまだ安心しておらず、以前の業況に戻るにはまだ時間が掛かりそうである。
○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見えてくると全体的に人流が多くなり、消費に対して前向きになってきているようにみえる。	

○	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・来客数と購買点数共に増えてきている。特に会員対象の販売会では、コロナ禍前ほどの集客と売上の回復があり、客の表情も穏やかに感じる。
○	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、ようやく人の動きが増えたようにみえる。
○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・10月に入り新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着き、県民割引も再開され、週末を中心に予約が入っている。
○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が解除となったが、宿泊部門は前年並みである。レストラン部門は来客数が徐々に戻ってきている。宴会部門は、引き続き企業における夜の宴会が全くなく、昼の会合利用にとどまっているが、昼の利用件数は前年より増えている。
○	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除された10月以降、平日のビジネス利用客が増え、前月より稼働率が10%以上アップしている。
○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・県内旅行の割引補助のお陰で何とかGo To Travelキャンペーンがあった前年の売上をクリアできたが、団体旅行の動きは鈍く先行きの不透明さは変わらない。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・10月から、当地のまん延防止等重点措置が全面解除になった。また、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向で1けた台になり、週末を中心に夜の街に人出が少しずつ戻るようになっている。しかし、外出自粛が定着したことや衆議院選挙の関係で、タクシー利用は低調である。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・テレビの撮影が県内で複数回あったことに加え、営業関係の人も少し増えている。
○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品が発売され、例年ならもっと販売台数の増加に貢献するのだが、在庫入荷が予想より少ないため、販売が伸び悩んでいる。
○	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送共に獲得した契約者数が、コロナ禍前の前々年同期を超えてきている。
○	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・ワクチンの接種が進むにつれて、感染拡大が落ち着きをみせ、人の移動や人流の制限も緩和されてきており、観光客も徐々に戻りつつある。また、県民割引等の需要喚起策も開始され、2～3か月前と比較すればやや良くなってきている。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年同月と比べて売上、来客数共に10%ほど伸びている。また、飲食関係も地域振興策でかなり忙しそうである。
○	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、客の動きが少しずつ戻っているようである。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・イベントや催事があると、人通りの多いときがみられるようになってきたが、平日は相変わらず人出は少ない。人出があっても手荷物を持っている人は少なく、財布のひもは固い。
□	一般小売店〔事務用品〕（店長）	単価の動き	・リモートワークの会社が多いため、仕事に必要な文具などの需要は変わらない。
□	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・新規感染者数が減少傾向になり、時短要請なども緩和されたが、すぐに状況が変わるわけではない。
□	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・近隣に大手スーパーマーケットが開店したが、来客数の動きが思いの外落ちない。価格競争による来客数の維持が主な要因かとみているが、新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きもあり、買い回る頻度が上がったのではないかと考える。
□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価が変わらない。
□	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・首都圏の緊急事態宣言が明け、状況が好転するかにみえたが、まずは外食しようという様子である。現在は18～20時の来客数が大幅に減少した状態である。
□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・前月と比べると、大物商材が若干回復しているが、全体では厳しい状況が継続している。

	□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・メーカーから新車の入荷状況が依然として悪いので、売上がなかなか戻ってこない。前年比で80%くらいの売上が続いている。
	□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・半導体や自動車部品の供給の遅れによる減産が続いており、受注残はあるものの売上に結び付いていない。この状態が年末くらいまで続くともみている。
	□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・ウッドショックや新型コロナウイルス感染症などの外的要因で販売量が左右されることが比較的多く、確実に需要が伸びている感じはない。
	□	その他専門店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・当地のワクチン接種率が70%近くまできている。Go To Eatキャンペーンも始まって、今後少し売上が伸びることを期待しているが、どうなるかはまだ分からない。
	□	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	お客様の様子	・新規感染者数が県内及び全国共に減少し、各種制限が緩和されて経済活動再開の動きがあるものの、消費者の動きに急激な変化はない。気温変化による実需品の購入はあるが、旅行や外出といったコト消費から波及するモノの消費はまだ低調である。
	□	通信会社 (役員)	販売量の動き	・契約者数自体に大きな変化はなく、現時点では景気の変化はみられない。
	□	その他レジャー施設 [スポーツクラブ] (総支配人)	お客様の様子	・1か月半の休業を前月末に解除した。新規感染者数が劇的に減っているが、いつ再拡大するか分からないという不安のなかでは、販促を再開してもなかなか新規入会には結び付かない。
	□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・10月以降の客の動きを心配していたが、大きな変化はみられない。受注高についても計画を達成できている。しかし、まだまだ経済が順調に回っていないので、予断を許さない。
	▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・外食需要の活気が戻りつつあり、スーパーマーケットでは特に夕方の来客数が減少傾向である。
	▲	スーパー (店舗管理)	販売量の動き	・新米の販売が10kgから5kgにシフトしている。また、大パックの動きが明らかに落ちている。客へのアンケートでも大容量パックは必要ないなどの意見も多い。独自クーポンも金額設定を低くしないと使用率が落ちる傾向にある。
	▲	スナック (経営者)	来客数の動き	・今月は珍しく客足があり多少期待していたのだが、中旬頃から悪くなったまま月末となり、なかなか思うようにいかない。
	▲	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・10月に入り客足の鈍化が目立つ。通年でみれば集客期に当たるが、客足が伸びないどころか落ちている。
	×	観光型旅館 (スタッフ)	来客数の動き	・今年はGo To Travelキャンペーンが実施されていない。また、緊急事態宣言の解除後の再拡大防止のための制限期間のため売上は前年の41%である。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	*	*	*
	○	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量の動き	・コロナ禍のもとで好調に推移している家庭消費向けの市販用カテゴリーは、一巡して前年並みで落ち着いている。同じくテイクアウト需要向けに引っ張られて好調な業務用カテゴリーでは、直近の自粛解禁ムードが手伝い外食向けも息を吹き返しつつある。全体として販売面ではプラス要素が勝っている。
	○	一般機械器具製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・助成金の影響があり、引き続き工作機械の受注は増え続けている。
	○	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・9月の月次決算では、前年同期と比べて完成工事の計上が多かったことから、売上高が大幅に上昇し営業利益も増えている。
	○	輸送業 (管理会計担当)	受注量や販売量の動き	・地元の荷動きは引き続き低迷気味であるが、都市部からの荷物は回復傾向にある。
	○	不動産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者からの話では、少しずつ動きが出てきているということである。
	□	繊維工業 (総括)	受注価格や販売価格の動き	・受注は回復基調にあるものの、原材料価格の高騰が収益を圧迫している。
	□	化学工業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・売上高は変わらないまま推移している。

	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大と半導体不足等による自動車生産停止の影響で、今一つ回復に力強さが欠ける状況が続いている。
	□	精密機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・海外の販売状況は欧米中共に良くなってきている。しかし、国内においてはようやく緊急事態宣言が解除されたものの、まだ時間がたっておらず、今後の市場や客の動きを注視している状況である。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・販売量を参考にしているが、最近は余り変化がみられない。ただし、10月以降は緊急事態宣言解除の恩恵があり、若干医療系機関からの注文が増加しているように見える。
	□	司法書士	取引先の様子	・複数の事業譲渡や、助成金を受けての新規事業関連の依頼がある一方、事業廃止や法人破産の相談もある。
	▲	輸送業（役員）	取引先の様子	・燃料高である。
	▲	金融業（融資担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除され、取引先の売上回復を期待しているが、原油や資材価格が高止まりして原価が先行して上がっており、利益率は低下している。
	▲	税理士（所長）	取引先の様子	・観光業や飲食業の取引先では、新型コロナウイルス感染症の終息に伴い大分復活している。医療品、アパレル関係も良いように見えるが、製造業、特に自動車産業の下請関係ではアジアから部品が輸入できない影響が大きくなっている。半導体以外にも細かな部品が輸入できず、受注があっても生産できないという厳しい状況である。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人希望の新規派遣先が増加している。また、既存の要員に加えて更に1人増員といった傾向も少しずつ増えてきている。
	○	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等の解除で、一切動きがなかったレジャーや旅行業界から大きな動きが出てきたという声が上がりは始めている。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月に入ってから少しずつではあるが、求人広告に動きがは始めている。来春に向けた定期採用の内容もみられるが、一部の原稿では、事業拡大につき増員募集といった文言も使われるようになり、やや景気の上向きを感じている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数に大きな変化がみられない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較して、新規求人数の変化がほとんどない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・短期以外は落ち込んだままで、新規求人の動きが少ない。新型コロナウイルス感染症が終息し、求人数が増加に転ずることを期待している。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—